

## [総合的な学習の時間]

# 地域調査・地域貢献でかかわり合う力を育てる

—全校で取り組む総合的な学習を通して—

牧井 創\*

### 1 問題の所在と研究課題

2002年の総合的な学習の時間の完全実施の年から、当校では試行錯誤を繰り返し、独自の体制作りと学習内容を検討してきた。年間の総合的な学習の時間の枠組みと学習内容の検討である。特に4月当初から6月までの全校で行う総合的な学習について、以下の2点において成果と課題が見えてきたので報告する。

#### (1) 総合的な学習の時間の指導計画作成をどのように行うか

総合的な学習の時間は学級や学年の実態に合わせて取り組むことが一般的である。しかし当校の実態として、毎年多くの異動などで学年部の職員構成が変化する環境にあつては、その計画作りや教師の事前調査・準備の時間を十分に確保することが困難である。そこで、学年組織が固まり学年の総合的な学習の詳細な計画ができるまでの間、研究推進部が中心となって計画を立てて進めていくこととした。

#### (2) かかわり合う力を育てるための総合的な学習の学習形態について

友人関係をうまく作れずトラブルを起こしたり、巻き込まれたりする生徒、家庭環境が複雑でよりどころを見失っている生徒、集団にうまくとけ込めずいつも一人である生徒が当校でも大勢いる。友達、家族、地域などとかかわり合う力を育てていく学習を進めていくことが重要な課題の一つである。

以上の2点を受け、1学期の学習を地域縦割りの学習として位置付けた。平成14・15年度は自分の町内を調べる活動を行い、平成16・17年度は、地域の課題に着目し地域に貢献する活動を行うことにした。2年間ずつの実践をもとに、当校の総合的な学習の時間の骨組みをしっかりとさせていくこととした。

### 2 研究の内容・方法

特別活動や生徒指導の視点を考慮しつつ、地域縦割り班で「地域を調べる活動」、「地域に役立つ活動」を行えば、生徒が地域の一員として、互いにかかわりあいながら学習を進める力を付けることができると考え、以下のような方法で研究を行った。

#### (1) 指導計画作成の担当者

当校独自のプランを作成するために、当初研究推進部が原案を作成した。研究推進部では総合的な学習の時間の年間題材配列表の作成と、全校総合「地域を調べる活動をしよう」または「地域に役立つ活動をしよう」の計画と評価基準作りを行う。さらに、全校総合のワークシート、評価シートなど各担当が共通で使用するものの準備をする。

1学期後半から2、3学期の総合的な学習の時間は各学年部主体の学習をする。

#### (2) 1学期(4月～6月)の期間、地域縦割りの全校総合の時間を確保

町内など日頃慣れ親しんでいる地域を調べたり、地域との交流をしたりすることや、学校を離れた活動を行うことで、意欲の喚起と社会で必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る。リーダー育成や地域とのコミュニケーションを深めるためのねらいも設定し、特別活動や生徒指導の視点も加えながら計画する。また、開かれた学校づくりの一環としても、地域社会の声に応える活動を取り入れる。

---

\*南魚沼市立六日町中学校

## (3) 生徒・地域・教師の視点から評価

以下の3つの方法で評価、分析を行う。

- ①生徒の自己評価カードの記述と全校総合アンケートの結果から
- ②地域へ配付するアンケート用紙の集約から
- ③教師の評価アンケートの記述から

〈総合的な学習の時間の主な内容〉

| 共通総合 75h   |  |  |     | 学年総合 30h |  |
|--|--|--|-----|----------|--|
| 縦割り全校総合  |  | 1学年  | 2学年 | 3学年      |  |
| 〈地域を考える活動〉<br>○全校総合（18時間）<br>「地域を調べる活動」<br>または、<br>「地域に役立つ活動」<br>○祭り後ボランティア<br>（2時間） | 〈集団の力を高める活動〉<br>○集団・リーダー育成に関する活動<br>○生徒会専門委員会を母体にした学校生活向上の取組<br>○壮行会関係 | 〈生き方を考える活動〉<br>○学習の意味を考える活動<br>○自学自習のトレーニング<br>○人権を考える活動<br>○薬物についての学習<br>○性についての学習<br>○食についての学習 |     |          | 1学年<br>・ふるさと六日町の調査<br>・職業調べと職場体験学習<br>2学年<br>・地域を見つめ直す学習<br>・他の地域から学ぶ学習<br>3学年<br>・未来の町づくりを考える学習<br>・3年間のまとめ |

### 3 指導計画

生徒と地域のつながりを深め、生徒と地域の双方向からアプローチする交流ができるように、以下の二つの活動を行う。

- ①自分の地域について改めて関心を持ち、地域のよさを知る活動（平成14・15年度）
- ②地域のために中学生として何が出来るかを考え実践していく活動（平成16・17年度）

#### (1) 地域を考える活動における「生きる力」のとらえ

生徒と地域のつながりは年々希薄になる傾向にあり、自分が生まれ育った地域について知らなかったり、良さをわからなかったりする生徒が増えている。そこで次のような点を生きる力ととらえ全校で取り組む。

- ・自分の生まれ育った地域の良さを認識する力
- ・地域内の生徒と新たな人間関係を築く力
- ・地域の一員として、よりよい環境にしていこうという意欲

#### (2) ねらい

- ・自分たちの住んでいる町内を調査・取材することで、住んでいる地域を身近なものにする。
- ・自分たちが住んでいる町内にとって何が大切かを考え、実践する力を身に付ける。
- ・町内の人とふれあい、地域への愛着を高め、地域の一員としての自覚を持つ。
- ・上級生をリーダーとした異学年小集団を編成し、互いに協力する良さを実感するとともに、望ましい人間関係づくりができる力を培う。
- ・自分たちの町内のよさをポスターやWeb発信することにより、表現力を身に付ける。

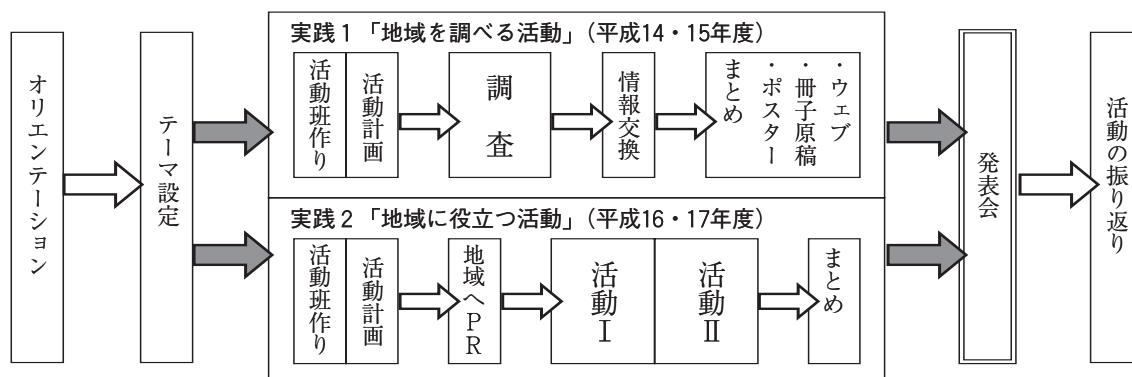
#### (3) 学習形態と担当者

- ・全校生徒約450名を居住区の地区で縦割りにし、異学年集団で活動する。
- ・地域数25に教室を割り当て、26名の教諭で分担をする。生徒数の少ない地域を合わせたり、生徒数の多い地域は分割したりして、可能な限り人数を調整する。実際は、地域のロケーションや地域の実情のために人数の調整は難しく、5～30人の地域分けとなる。
- ・出張等への対応のために3～4地区をブロックにし、担当教師が互いに補佐し合えるようにする。活動時は、同ブロック内の地区は、教室を隣接するように配慮する。
- ・全地区の学習の歩調を合わせ、効果的な学習を展開できるようにブロックには研究推進部の部員、または旧部員を配置する。

## (4) 評価のしかた

- ・学習内容に関しては、毎回振り返ることのできる振り返り用紙を用意し、活動の振り返りができるようにする。また、身に付いた力については全学習の終了時にレーダーチャートで自己評価を行う。

## (5) 学習の流れ（全18時間）



## 4 実践1「地域を調べる活動」

各地域4～6名ずつの班に分け、班ごとにテーマを設定して調査活動を行った。一番大きい地域で最高7つのテーマが設定された。特に2年目の実践は前年度のテーマが参考になり、歴史・文化・自然・芸能・観光など様々な分野から地域を見つめるテーマが設定された。以下は15年度にまとめた冊子から抜き出したものである。

| 地域  | テーマ名     | 調査内容                   | 訪問先    |
|-----|----------|------------------------|--------|
| 地域A | 古墳       | 町内にある古墳の大きさ、形、造りなど     | 地域住民   |
|     | 古くからの行事  | 昔から伝わる神社の由来や祭事など       | 考古博物館  |
|     | 温泉       | 町内にある温泉の泉質、源泉、効能など     | 温泉旅館   |
| 地域B | 十二沢川     | 名称の由来、河川工事の内容について      | 土木事務所  |
|     | 学校の移り変わり | 母校の小学校の今昔を調査           | 母校の小学校 |
| 地域C | 伊勢町の町並み  | 駅前通りの商店街の移り変わりについて     | 駅前商店街  |
|     | トンネルについて | トンネルの概要について            | 役場     |
|     | 大月焼について  | 地元で有名や焼き物の作り方や売れ筋など    | 町内の陶芸家 |
| 地域D | 大月城について  | 城が存在した場所や規模など          | 地域住民   |
|     | 住居について   | 住宅地となった背景や家の造りについて     | 地域住民   |
|     | 世帯数      | 昔からの世帯数の変化について         | 地域住民   |
| 地域E | 田んぼと植物   | 水田の面積の変化と農作業の変化の様子について | 地域住民   |
|     | 屋号について   | 今も残る屋号について             | 地域住民   |
|     | 和菓子      | 町内の和菓子屋の製造から販売までの過程など  | 菓子店、工場 |
| ：   | ：        | ：                      | ：      |

## 【生徒の感想】

- （前略）このように〇〇町の地盤沈下の問題は深刻であり、大きな問題点であることがわかりました。しかしもともどせなくても、沈下を防ぐことはできます。この学習によってそれを学び知りました。そして、全校の多くの人にこのことを知ってほしいです。
- 〇〇町のお店の利用者は幅広いが、中高年層が多いことがわかった。地元のお客さんが多く、お店の方々は気持ちのつながりを第一に考え、お年寄りにとって利用しやすいように、工夫されていることが印象的だった。また、時代の流行を取り入れることが大切だということがわかった。それぞれのお店の由来も様々で、とても興味深かった。
- 去年の地域総合でとてもたくさんの事を調べたのに、まだまだ知らない事があったので驚きました。地域の方々には、知識が豊富な方が多く、とてもわかりやすく教えていただきました。3年生として、1・2年生にどんな仕事を分担すればよいか考えるのが大変でした。

この実践を通して得られた成果をまとめると以下のようになる。

- 地域と中学生を結び付けるよい活動であった。地域の協力が得られた。
- リーダーを育てるのは非常に難しいし手間がかかるが、3年生のリーダーの成長は素晴らしく、年度初めのこの時期に短期間でリーダーが成長することは学校全体としても価値が大きい。
- 縦割り編成のために3年生が目的意識を持って取り組み、活躍できた。
- リーダーチャートによる評価は、生徒自身にも自分の成長がわかりやすかった。
- 評価の時間を確保し、生徒一人一人がしっかりと振り返ることができた。学習の最後に充実感を持てたのはよかった。
- 1年生にとってはこの学習がトレーニングの場面になり、学年の総合にスムーズに取り組める。
- 学年で取り組む総合の準備が持てることがよい。  
一方、課題も明らかになった。
- 2年間続けると同じテーマでは深化・拡充が見えない。担当者の工夫が必要である。
- 地域の方々とのコミュニケーションをとる場面が少ないので、その場面設定を活動に組み入れる必要がある。
- 学習前と後で身に付いた力の評価ができるともっとよい。

## 5 実践2「地域に役立つ活動」

平成16年度、17年度は地域とのかかわりをさらに深められるように、地域の課題を見つけ、その課題に対して自分たちができるような活動を考え実践した。課題を見つけるとき、活動を考えるときには、地域の方々にアンケートをとったり、直接会ってインタビューをしたりし、コミュニケーションをする場面を設定した。

各地域で工夫があり、様々なテーマの活動が展開された。以下にその活動テーマを紹介する。

| 地域  | テーマ名                              | 活 動 内 容  |
|-----|-----------------------------------|--|
| 地域A | ゴミ拾い<br>団子作り                      | 団地の周辺通学路や古墳のゴミ拾いを行った。<br>地域の方とふれあう活動として集会所での団子作りをした。                                   |
| 地域B | 役場前公園の掃除<br>町内のゴミ拾い               | 地域のボランティアの方々に協力を依頼し、一緒に清掃活動を行った  |
| 地域C | 大月美化運動<br>交通安全の呼びかけ               | 地域の方々の協力を得て、公園の美化活動を行った。<br>交通安全を呼び掛けるポスターを作って掲示した。                                    |
| 地域D | 交流会<br>花植え                        | 地域のお年寄りとの交流会を開き、お汁粉などを作りながら交流をした。<br>地域のコミュニティサークルの方々と花を植える活動を行った。                     |
| 地域E | 公民館の美化活動<br>ゴミ出しポスター作り<br>保育園の手伝い | 公民館周辺のゴミ拾いや公民館内の清掃を行った。<br>ゴミ出しのルール、マナーについて呼び掛けるポスターを作成した。<br>地元の保育園で清掃活動をし、園児と交流を持った。 |
| ⋮   | ⋮                                 | ⋮  |

ほとんどの地域で地域住民の協力が得られ、地域に貢献できる活動となった。また、中には老人会やコミュニティサークルの方々との連携がうまく機能して充実した活動を進める地域も出てきた。純粋にコミュニケーションを目的にしている地域もあった。生徒の感想を見ると、うまく地域の協力が得られたところでは、充実し満足のいく活動であったという記述が多く、逆に地域住民とのかかわり合いが持てなかったところは物足りなさを感じていたようである。

地域とのかかわり合いとしては、活動前のアンケート調査、インタビュー活動、当日の活動への協力依頼、活動中の交流、事後の活動に対するアンケート依頼が挙げられる。これらの活動を通して、地域とのかかわり合いを深めることができた。

### 【生徒の感想】

- 今回の活動で、地域の方々から教えてもらったり、協力してもらったりしたおかげで、また新たに私たちの地域に美しい場所が増えました。そして、1、2年生は来年も、3年生は社会人になってもこの生まれ育った地域を大切に地域活動に協力していきたいです。
- 学年に関係なく、みんなが協力して活動を行うことができてよかったです。
- 地域の方々と交流することができてよかったです。お年寄りの方たちからいろんな話を聞いてとてもためになりました。花植えではまちをきれいにすることができてよかったです。私たちはこれからも進んで活動していきたいです。

【地域からの声】

- 地域の中でそうじをしたりしている子どもたちの姿は大人である自分たちの励みにもなります。またこういう活動をやらせてもらえるとうれしいと思います。
- 地域のために何かをやるという気持ちは、とても大切だと思います。地域の方々とふれあいにとても有効だと思います。

成果をまとめると以下のようになった。

- 地域に役立つ活動は、地域を調べる活動に比べて大勢の地域の方々と交流する場面を設定できた。
- 地域との連絡体制の確立（区長との連絡、回覧板、地域連絡生徒の活用）をすることで地域の声を集めることができた。この地域からの声が生徒の達成感や充実感につながった。
- 自己評価のレーダーチャート（下図左）に活動前と後の評価をすることで、生徒の成長の様子を見ることができた。

〈改良を加えた評価カード〉

〈総合のまとめ冊子より抜粋〉



田中町 活動テーマ ①公民館をきれいにしよう ②ポスターでよびかけよう ③保育園の手伝いをしよう

☆活動の紹介☆

①公民館をきれいにしよう  
 ・公民館周辺のごみ拾い、公民館内のそうじ

②よびかけについてポスターでよびかけよう  
 ・よびかけのルール、マナーについてよびかけポスターを作り、はりました。

③保育園の手伝いをしよう  
 ・ハチ保育園に行き、そうじをしました。最後には園児と楽しくお茶を飲みました。

☆地域の方々の声☆  
 ・中学校側から積極的に地域に活動してくれることが足がかりとなり、地域の人々が中学校の活動に関心をもち、声かけや活動のつながりができ大変良い活動で取り組めました。  
 ・地域の中でそうじをしたりしている子どもたちの姿は大人である自分達の励みになります。こういう活動をやらせてもらえるとうれしいと思います。など、とてもうれしい声がありました。

☆全校系総合を通して☆  
 ・地域に役立つ活動ができて良かったです。普段はあまりできない活動も、積極的に取り組めました。地域の方々によるこんでもらえて、とてもうれしかったです。

←保育園にて。園児は本たのしみ先生とよんでいました。

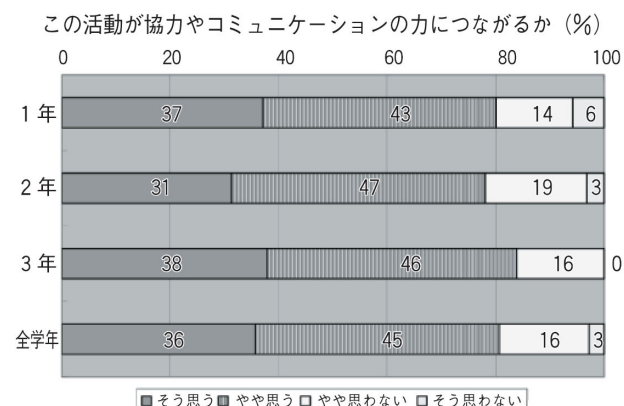
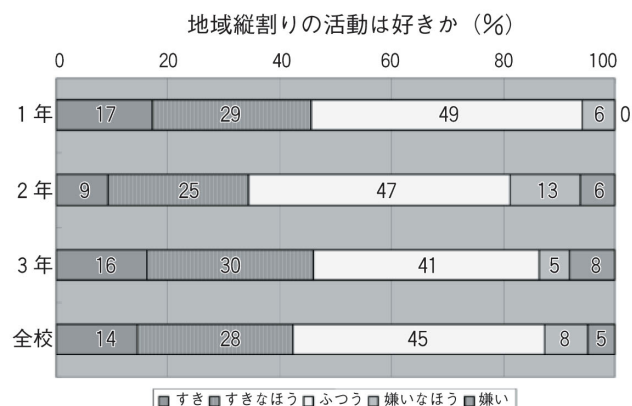
20

さらに課題も明らかになった。

- 「調べる活動」と比べて地域へ出ての活動が主体であったことから、教室での活動で一人一人の役割分担、仕事分担に工夫が必要となる。人数が多い地域では、手持ちぶさたの生徒が生じないような配慮が必要となる。
- 生徒、担当教師、地域の方々が影響しあいながら交流を行うので、この三者がうまく交流できないと充実感や満足感を感じられない。各地域で異なる人数、協力体制、メンバー構成などの制約をどのように改善するかが鍵となる。教師の柔軟性とアイデアの活用を促すことが大切となる。

6 考察

地域を調べたり貢献したりする活動を通して、中学生と地域とのつながりが深まった。保護者だけでなく、住民の協力も得られ、中学校が地域にお願いするだけでなく地域から依頼される活動となった地域もあった。中学生にとって



て地域から働き掛けられることは、地域社会の一員としての自覚を高めていく機会となり、かかわり合いを深めるよい活動となり得る。

地域縦割り班で活動を行うことで、上級生が下級生を教える場面が生ずる。中には、普段リーダーとなれない生徒が地域の代表となり、意欲的に取り組む姿が見られた。生徒に地域縦割りの活動についてアンケートをとったところ、4割を超える生徒が肯定的にとらえ、否定的にとらえているのは2割に満たなかった。通常の学級単位で行う授業と同じように受け止めている生徒も多数いた（前頁左図参照）。

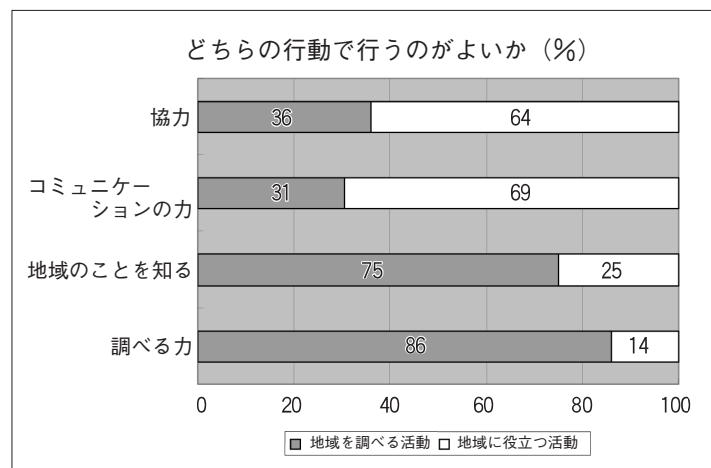
地域縦割りの活動が好きな理由としては、学年を越えた交流や地域の人たちとの交流ができる、地域の人が喜んでくれる、先輩が優しくしてくれる、先輩と一緒にだと頼りになるし困ったときに助けてくれる、全学年が協力できるなどの理由が多い。逆に嫌いと答えた生徒では、異学年だと親しくなれない、先輩と接しにくい、地域の人に役立っているかわからないという理由が多い。

このことから、全校で行う総合的な学習の時間では、かかわり合うことに生徒も視点を持ち、活動の成果もかかわり合いが持てるかどうか大きく影響していることがわかった。コミュニケーションの力につながるかどうかのアンケート結果（前頁右図）からも本活動がかかわり合う力の育成に影響していることは明らかである。

「調べる活動」と「役立つ活動」の関係については、3学年生徒のみが両方の活動を経験していることから、2つの活動についてどう感じているのか現3年生のアンケート調査を行った。協力性やコミュニケーションの力はどちらかという「地域に役立つ活動」で、地域のことを深く知る、調べる力を付けるには「地域を調べる活動」がよいという結果となった。教師が意図していたねらい通りに生徒も感じていることがわかった（右図参照）。

また、縦割りの活動のメリットとして、1年生の生徒は、ポスターのかき方やチラシ作りなどのスキル、発表原稿作りや発表のしかたのスキルの向上において効果があると考えている。また上級生と一緒に活動することで、半数以上の生徒が安心して地域との交流に参加できると答えている。全般的にスキル向上、交流の安心感という点では、学年が上がるごとにポイントは下がるが、前述したとおり、上級生になるにしたがって、リーダーシップを発揮して行うというメリットがある。

2つの活動の特徴が明確になったことで、今後もこの活動を効果的に行っていきたい。



## 7 参考文献

- 九州個性化教育研究会 「総合的な学習の時間の計画・実践・評価」 黎明書房、2000年  
 国立教育政策研究所教育課程研究センター 「総合的な学習の時間 実践事例集（中学校編）」、2003年  
 高階玲治 「Q & Aこんなときどうする新教育課程No.2中学校総合的な学習の時間」 教育開発研究所、2000年  
 文部省 「中学校学習指導要領」 文部省印刷局、1998年  
 文部省 「中学校学習指導要領（平成10年12月）解説—総則編—」 東京書籍、1999年